

山口大学との連携が進む！ 「連携研究覚書を締結」



覚書の締結後、農学部長(左)と農業試験場長(右)が握手



連携研究の覚書に双方が調印



中間報告・意見交換を実施



平成18年8月、農業試験場で「山口大学農学部・山口県農林関係試験研究機関連携推進会議※（会長：中川一農業試験場長）」が開催され、山口大学農学部（古賀大三農学部長）と県農林関係試験研究機関（農業試験場、畜産試験場、林業指導センター）が、連携研究に関する覚書を締結しました。

これは、昨年6月に発足した当連携推進会議で、これまでに進めてきた連携研究の取り組みについて成果が得られつつあることから、より充実した取り組みとするため、研究ルールを取り決めたものです。

本推進会議では、今後も連携の輪を拡大しながら、地域に貢献できる研究を進めていきます。

※山口大学農学部・山口県農林関係試験研究機関連携推進会議
地域に貢献できる研究を効果的に進めるため、山口大学農学部と農業試験場・畜産試験場・林業指導センターが、組織的な連携を行う目的で平成17年6月に設置

<主な内容>

◇連携研究の事例紹介

『小麦枯れ熟れ様障害のしくみ解明と対策』 ～栽培技術部～

◇こんな研究をしています！ ～栽培技術部 作物栽培グループ～

『小麦「ニシノカオリ」の収量・品質向上のためのポイント』

『農業試験場育成品種の紹介』 ～育種開発部 作物育種グループ～

『カンキツ省力貯蔵技術の紹介』 ～大島柑きつ試験場～

◇『国民文化祭で「伝統野菜・果樹」を紹介』 ～企画普及部～

◇柑きつ関係の研究を公開 ～大島柑きつ試験場・萩柑きつ試験場～

◇花き振興センターの取り組み ～花き振興センター～

「連携研究の事例紹介」～ 栽培技術部 作物栽培グループ ～ 小麦枯れ熟れ様障害のしくみ解明と対策

県内最大の麦生産地である山口市名田島地区では、小麦の収穫時期直前に穂や葉が枯れ上がり、収量や品質が大幅に低下する「枯れ熟れ様障害」が多発し、深刻な問題となっています。また、その発生のしくみは複雑であることが知られています。

この課題に対し効率的に取り組むため、山口大学農学部(作物生理面からの研究担当)、農業試験場(栽培、土壌面からの研究担当)、山口農林事務所(現地指導担当)が連携し、それぞれ役割分担しながら研究を進め、これまでに、子実への養分蓄積の特徴や、品種、ほ場条件による発生の違いなどが解かってきました。

今後、県産小麦の安定生産、安定供給に向け、密接に連携しながら取り組みを進めます。



小麦の「枯れ熟れ様障害」



現地ほ場で発生状況を連携調査

こんな研究をしています！ ～ 栽培技術部 作物栽培グループ ～ 小麦「ニシノカオリ」の収量・品質向上のためのポイント

小麦「ニシノカオリ」はパン用として業者等からの需要が増えていることから、収量向上とパン用の適正な子実タンパク確保をねらった良品質小麦の安定生産方法を研究しました。

◎ 増収のポイント「しっかりと穂肥をやる！」

春先からの栄養状態が悪くなると、穂数や1穂当たりの粒数が減り、収量が取れないので、3月上旬の穂肥を従来より増やしましょう(窒素成分で4kg/10aが目安)。

なお、3月上旬頃の1㎡当たりの茎数が600本に満たない場合は、穂肥をさらに増やしましょう(窒素成分で6kg/10aが目安)。

◎ 子実タンパク向上・安定化「実績に応じた開花期追肥で！」

主産地である干拓地の砂質水田では、畑や肥沃な水田と比べると、子実タンパクの適正值(11.5～14%)達成が困難です。

このため、穂が出て7～10日後頃に行う開花期追肥で子実タンパクを向上させる必要があります。

窒素成分1kg/10aの施用で0.7～0.8%程度子実タンパクが高くなるので、過去の実績に応じた追肥(平年が10%程度であれば2kg/10a)を行い、適正值を達成しましょう。



穂揃期の「ニシノカオリ」



3月上旬頃の生育状況

こんな研究をしています！

～ 育種開発部 作物育種グループ ～

農業試験場育成品種の紹介

水稻「せとのにじ」

(平成18年9月品種登録出願、平成18年12月出願公表)

「せとのにじ」は「コシヒカリ」を親に持つ「ヒノヒカリ」と「祭り晴」を交配して育成した食味の優れる品種です。

また、アミロース含量がやや低く、冷めても柔らかい食感が特長です。

丈が短くて倒れにくく、9月下旬に収穫できるので作期分散に利用できます。

今年度から光市で、本格的な栽培に向けた試験栽培が開始されました。



水稻「あきまつり」

(平成18年9月品種登録出願、平成18年12月出願公表)

「あきまつり」は、「コシヒカリ」を親に持つ「ヤマヒカリ」と「祭り晴」を交配して育成した食味の優れる品種です。

また、外観品質がとても優れ、丈が短くて倒れにくく、いもち病に強いのが特長です。

9月下旬に収穫できるので作期分散に利用できます。

今年度は、県内6カ所で試験栽培を行いました。



せとのにじ 日本晴 あきまつり

こんな研究をしています！

～ 大島柑きつ試験場 ～

カンキツ省力貯蔵技術の紹介

1月以降に出荷する温州ミカンが果実を収穫した後、出荷まで果実を貯蔵庫の平棚に移し替えて貯蔵します。しかし、生産者の高齢化が進む中で、平棚への果実の搬入出作業は負担が大きく、作業時間がかかるため、楽に貯蔵できる方法を研究しました。

この貯蔵方法は、コンテナへ収穫した果実にそのまま不織布シート(果実のしなびなどを防ぐ)を被せるだけなので簡単にできます。

また、果実品質は従来の棚貯蔵と変わらず、さらに貯蔵作業に伴う入庫から選果、出庫までの作業時間を半減できます。



従来の棚貯蔵



収穫した果実をそのまま貯蔵し、予措完了後に乾燥防止のため不織布シートを被覆

「伝統野菜・果樹」を紹介！ ～第21回国民文化祭・やまぐち2006「食の祭典」～

平成18年11月3日(金)～5日(日)に、下関市の海峡メッセ下関展示見本市会場で開催された“国民文化祭・やまぐち2006”において、「伝統野菜・果樹」の収穫物や鉢植え約30点を展示・紹介しました。

これは、下関市が行った「こだわりの農産物紹介」の取組に協力したもので、地元の「彦島春菜」を始め、「田屋なす」「山口甲高タマネギ」など独特の特性を持った農産物が勢ぞろいし、来場者から活発に質問がでるなど、国民文化祭を盛り上げました。

農業試験場では、今後もこのような伝統野菜・果樹の復興・育成を進めていきます。



来場者に展示物を説明・紹介



鉢植えによる展示・紹介



収穫物の展示・紹介

柑きつ関係の研究を公開



大島柑きつ試験場では、収穫が本格化する直前の姿を見てもらうため、平成18年10月に、この時期では初めての研究成果等の公開を行い、県オリジナル柑きつ「せとみ(商標名；ゆめほっぺ)」の栽培技術や普及活動などを報告しました。

また、萩柑きつ試験場では、12月に県オリジナル香酸柑きつ「長門ユズキチ」の適期収穫方法などの成果発表を行いました。

花き振興センターの取組み



県花卉園芸組合連合会と共催で、山口・島根・広島県合同のカネーション研修会を実施

当センターでは、花き生産者への支援の一環として様々な花きの優良品種の実証展示を行っており、隣接する「やまぐちフラワーランド」から気軽に見学ができるコース※を設けていますので、ぜひ御来場ください。(※時間指定)

なお、展示されている花きの品種・期間等は下記のホームページから確認できます。
(URL)<http://www.nourin.pref.yamaguchi.lg.jp/kaiki/index.html>

<山口県農業試験場 企画普及部>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-0211 FAX(083)927-0214
URL <http://www.nourin.pref.yamaguchi.lg.jp/hp/kenkyu/nougyou/index.htm>

※ 会場が行うイベント情報などは、こちらから確認できます。

皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。

なお、詳しい研究内容を御希望の方は、農業試験場まで御連絡ください。